

新年のご挨拶

ご近所のみなさん、あけましておめでとうございます。日本共産党です。

今日は、新しい年を迎えて心なごむみなさんに、連帯と決意の心をこめて、ご挨拶を申し上げます。

みなさん。

自民・公明の小泉内閣が、アメリカと財界言いなりに進める、「構造改革」・「規制緩和」の政策は、安全よりも儲けを優先させる、耐震強度偽装事件を引き起こしました。雇用の分野では、大企業が史上空前の大もうけをあげる一方で、リストラと不安定雇用が広がり、賃金切り下げが進められています。

そうした中で、頑張っている人たちがいます。たとえば、「首都圏青年ユニオン」という組合は、アメリカ系企業の日本法人がやっていた、違法な派遣や無法な残業代不払いを告発して、勝利しました。「たった二百人のフリーター組合が、グローバル企業を追い込んだ」と、経済雑誌が大きく報道しました。

みなさん。

こんにち必要なのは、「勝ち組・負け組み」という風潮を打ち破る、社会的連帯の力ではないでしょうか。日本共産党は、今年も、働くみなさん、とりわけ若いみなさんと力を合わせて、頑張ります。

みなさん、今年日本国憲法が公布されて、六十年目になります。

昨年、日本の戦争は正しかったという「靖国史観」と、総理の靖国神社参拝が、国際的な批判を呼びました。そうした中で、自民党は「新憲法草案」を発表し、民主党は「憲法提言」を発表しました。

いずれも、第九条を変え、「自衛軍」を明記して、自衛隊を「戦争のできる軍隊」に変え、日本を「戦争をする国」につくりかえる立場です。公明党もこの流れに合流しています。

みなさん。もともと、「集団的自衛権」の行使ができるように、憲法の歯止めを取り払うようにと言ってきたのは、アメリカでした。自衛隊のイラク派兵に続いて、今度は、憲法まで、アメリカいいなりに変えてしまうような政治で、よいのでしょうか。

ノーベル賞作家の大江健三郎さんや、井上ひさしさん、加藤周一さんなど、日本の知性を代表する九人の方たちが、「第九条のある日本国憲法を守ろう」と呼びかけています。草の根の「九条の会」は、全国で三千数百も作られました。埼玉県内でも、日本共産党も一翼を担って、地域や職場の「九条の会」が次々とつくられ、その数は準備中のもも合わせると、百二十を超えました。この運動をさらに広げ、**憲法改悪**を許さないために、力をあわせようではありませんか。

みなさん。小泉内閣の中から庶民増税・消費税増税の声が高まっているのは重大です。必要なのは、史上空前の大もうけをあげている大企業に社会的な責任と応分の負担を求め、公共事業と軍事費の無駄を徹底的になくする改革ではないでしょうか。庶民増税反対の声をあげて、暮らしと日本経済を守っていきましょう。ありませんか。

今年も、こうして直接お話しすることも含め、宣伝や署名、講演会など様々な活動に取り組んでまいりますので、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ご意見も、遠慮なく、お聞かせください。

ご協力、ありがとうございます。